

KONISHI REPORT

第94期 株主通信

第2四半期累計期間

2018年4月1日～2018年9月30日

 **コニシ株式会社**

証券コード：4956

2020年 創業150周年に向け、重点施策を着実に実行して参ります。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府や日銀による経済・金融政策により、景気は緩やかに回復しております。また、企業業績の改善を受けた設備投資は緩やかに増加し、個人消費は雇用・所得環境の改善により持ち直しております。

当社グループの関連業界では、住宅業界においては、持家・貸家等の新設住宅着工戸数は横ばいで推移しております。土木建設業界においては、都市部の再開発や建築物の補修・改修工事の需要および道路、鉄道などのインフラ整備並びに維持修繕の需要は堅調に推移しております。自動車業界においては、IT化に伴う電子部品等の需要が増加しております。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高630億23百万円(前年同四半期比4.5%増)、営業利益28億66百万円(前年同四半期比5.6%減)、経常利益29億72百万円(前年同四半期比2.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は18億10百万円(前年同四半期比5.7%減)となりました。

当社グループは、2019年3月期を初年度とする3力年の中期経営計画を策定し事業を推進しております。中期経営計画達成に向け、グループ経営をより一層推進し、グループ各社の連携強化による相乗効果を発揮することで、安定した利益を創出し企業価値を高めて参ります。ボンドセグメントにおいては、サンライズ(株)、ウォールボンド工業(株)との連携を深め住宅関連分野などのコア事業での更なる販売拡大、そして次の柱となる産業資材分野への強化を図っていきます。また土木建設セグメントにおいては、建築補修分野での補修材・シーリング材のさらなる販売拡大、土木分野ではボンドエンジニアリング(株)などの関係会社との協業を進め、コニシ独自の補修・補強工法を積極的に展開して参ります。化成品セグメントにおいては、新規商材・新規顧客の開拓を引き続き強化するとともに、昨年到新設しました材料科学研究所と連携し自社技術を活かしたコニシならではの提案型商社の構築を目指していきます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層

のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 よこ た たかし 横田 隆



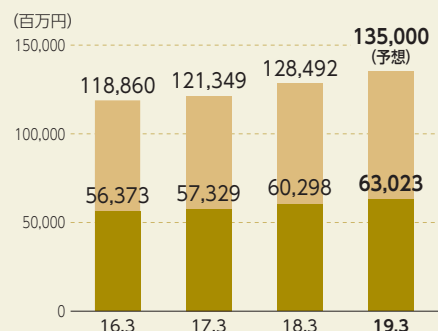
売上高

63,023 百万円

前年同四半期比 4.5%増



■ 第2四半期累計期間 ■ 通期



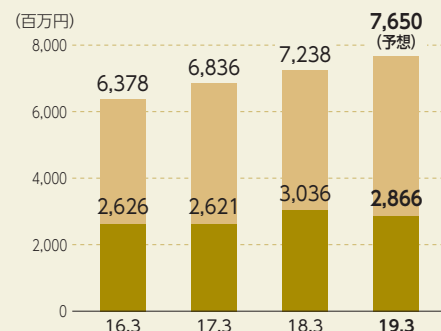
営業利益

2,866 百万円

前年同四半期比 5.6%減



■ 第2四半期累計期間 ■ 通期



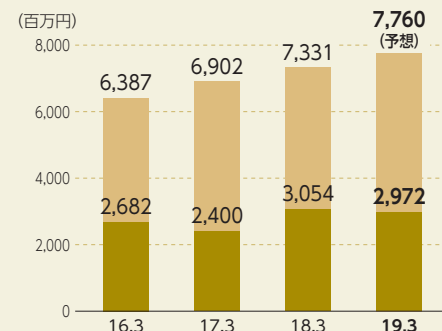
経常利益

2,972 百万円

前年同四半期比 2.7%減



■ 第2四半期累計期間 ■ 通期



ポイント解説

売上高は、各セグメントともに順調に推移いたしました。特に土木建設セグメントは、関係会社を中心としたインフラおよびストック市場の補修・改修・補強工事業が好調に推移しました。また土木建設分野に使用されるシーリング材も好調に推移し、売上を大きく伸ばしました。

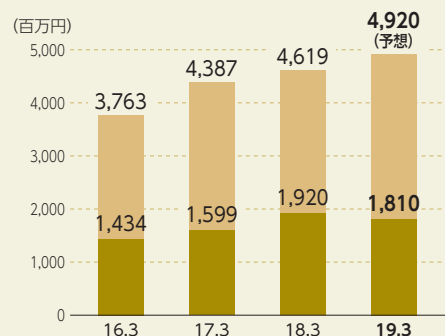
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

1,810 百万円

前年同四半期比 5.7%減



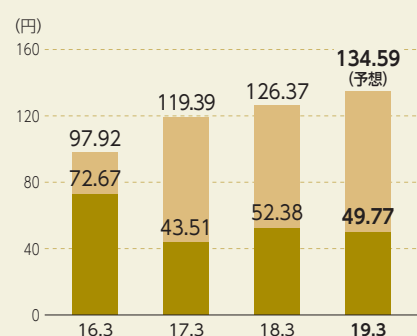
■ 第2四半期累計期間 ■ 通期



1株当たり四半期(当期)純利益

49.77 円

■ 第2四半期累計期間 ■ 通期

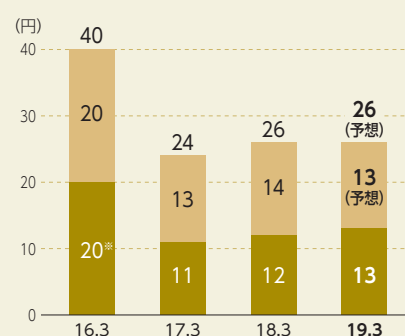


2016年4月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき2株の割合をもって分割しております。2016年3月期以降における1株当たり四半期純利益および1株当たり当期純利益については、当該株式分割後の発行済株式総数(自己株式数を除く)により算定しております。

1株当たり中間(期末)配当金

13 円

■ 中間 ■ 期末



※普通配当 15円
株式会社設立90周年記念配当 5円
2016年4月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき2株の割合をもって分割しております。2016年3月期の配当については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

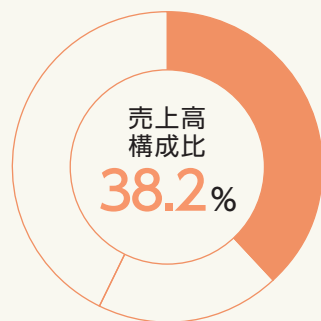
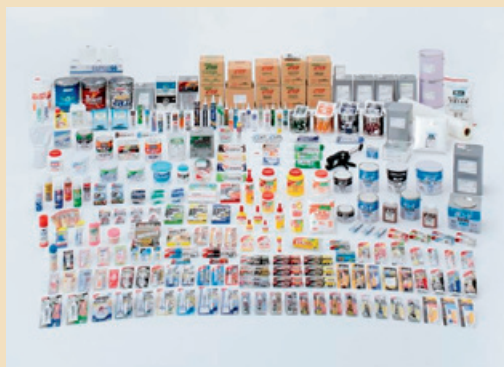
営業利益は、bondセグメントにおける原材料価格の上昇、物流コストの高騰による影響が大きく、全体では減少となりました。土木建設セグメントは関係会社のbondエンジニアリング(株)が好調に推移し、利益を伸ばしました。

ボンド

事業内容

「ボンド」ブランドの接着剤、シーリング材、工業用テープ、離型剤、ワックスなどを製造するメーカーとしての活動を行っています。ボンドセグメントが関わる分野は、住まいの内外装工事に使用される住宅関連分野、工場の生産ラインで使用される産業資材関連分野、工作・DIYで使用される一般家庭用分野など多岐にわたります。

浦和と大阪に研究開発拠点を備え、新製品の開発・改良を行っています。生産拠点は栃木工場・滋賀工場の2拠点で、栃木と滋賀には自社で物流センターを構えています。



売上高

24,046 百万円

前年同四半期比

+2.0%

営業利益

1,903 百万円

前年同四半期比

-15.9%

○セグメント構成

コニシ(株) ボンド営業本部

水口化学産業(株) ボンドケミカル商事(株) ボンド販売(株) ボンド物流(株) ウォールボンド工業(株)

サンライズ(株) KB LINE(株) 科昵西貿易(上海)有限公司 科陽精細化工(蘇州)有限公司

Kony Sunrise Trading Co.,Ltd.(タイ) Konishi Lemindo Vietnam Co.,Ltd.(ベトナム)

当第2四半期連結累計期間の概況

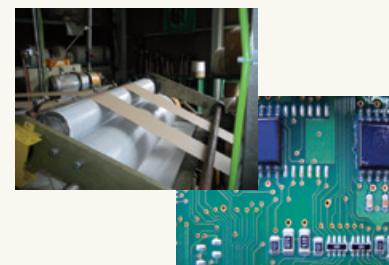
住宅関連

新設住宅着工戸数は横ばいで推移していますが、新規採用や他社切替が進み、現場で使用される内装工事用接着剤、建築資材の製造に使用される接着剤が順調に推移しました。



産業資材関連

紙関連用途向け接着剤が引き続き好調に推移しました。また自動車・電子部品等に使用される接着剤も売上を伸ばしました。新規開拓が進んだ粘着テープの売上も伸びました。



関係会社

サンライズ(株)、ウォールボンド工業(株)ともに、コニシ(株)向け施工用接着剤の販売は順調に推移したものの、既存ルートでの販売が落ち込み、売上は昨年並みとなりました。営業利益は、コニシ(株)と同様に原材料価格の上昇、物流コストの高騰の影響により減少となりました。

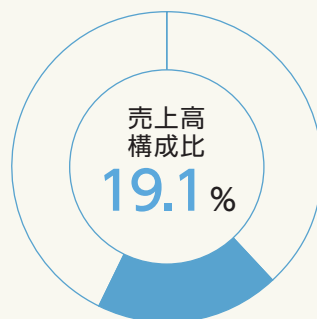


土木建設

事業内容

現在では過去に建てられた建築物ストックや社会資本ストックを、補修・改修してより長く利用できるように維持管理していく時代になってきています。コニシグループでは、関係会社を中心に展開しておりますストック市場の維持・補修・改修を目的とした「土木建設」を、「ボンド」「化成品」に次ぐ第3の柱として事業展開しています。

コニシ(株)のビル・マンション・橋梁・トンネルなどを直す際に使用される土木建設用接着剤、補修材、シーリング材と、それら補修・改修工事の請負事業であるコニシグループ関係会社との連携をさらに強化し、人々が豊かで安心できる社会づくりに貢献いたします。



売上高
12,063 百万円

前年同四半期比
+11.2%

営業利益
623 百万円

前年同四半期比
+39.9%

当第2四半期連結累計期間の概況

土木建設工事分野

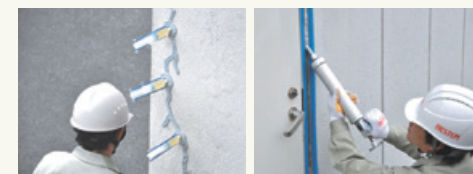
公共事業を中心としたインフラおよびストック市場の補修・改修・補強工事が好調に推移しており、ボンドエンジニアリング(株)は引き続き大きく売上を伸ばしました。また前年に子会社化した角丸建設(株)は、前年第3四半期より連結業績に含まれているため売上の増加に寄与しました。



土木建設用の接着剤・シーリング材

建築分野においては、外壁はく落防止工法に使用する材料、建築用シーリング材が好調に推移し、売上が増加しました。

土木分野においては表面保護・はく落防止工法は好調に推移しましたが、道路床版補強工法に使用する補修材が減少し売上は前年同期並みとなりました。



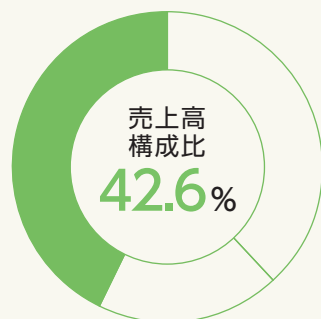
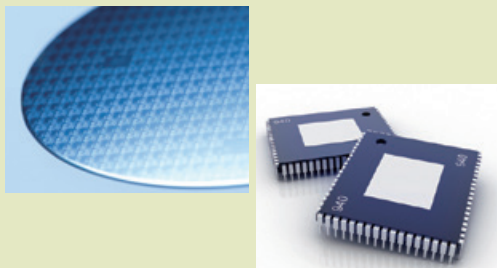
○セグメント構成

コニシ(株) 土木建設営業本部 ボンドケミカル商事(株) ボンドエンジニアリング(株) ボンド物流(株) 近畿鉄筋コンクリート(株) 角丸建設(株) コニシ工営(株) KB LINE(株)

化成品

事業内容

企業間を結ぶ化学品専門商社として、メーカーから原料などを仕入れて、ユーザーに販売する活動を行っています。化学品、塗料、電子・電機、自動車などの分野を中心に、中国・台湾・タイ・インドネシアの海外拠点とも連携を図りお客様のニーズにお応えしています。また、昨年に新設しました材料科学研究所と連携し、自社技術を活かしたコニシならではの提案型商社の構築を目指していきます。



売上高
26,861 百万円

前年同四半期比

+4.0%

営業利益
304 百万円

前年同四半期比

-0.1%

当第2四半期連結累計期間の概況

化学工業および電子・電機業界向け

化学工業業界においては、樹脂原料の販売が低調に推移し、売上は減少しました。電子・電機業界においては、半導体封止材関連商材や電子回路基板材料が好調に推移し、売上は増加しました。



自動車業界・塗料業界向け

自動車業界においては、IT化に伴う電子部品に使用される商材が増加しており、売上は増加しました。塗料業界においては、国内向け建築用、自動車補修用塗料の販売が大きく落ち込んでおり、塗料向け商材全般は低調に推移しました。



関係会社

丸安産業(株)は薄膜やコンデンサに使用する商材が好調に推移し売上は増加しました。



○セグメント構成

コニシ(株) 化成品営業本部
丸安産業(株) 科昵西貿易(上海)有限公司 PT.KONISHI INDONESIA(インドネシア)
Kony Sunrise Trading Co.,Ltd.(タイ) 台湾丸安股份有限公司

その他

不動産賃貸業となり、売上高51百万円(前年同四半期比13.9%増)、営業利益は33百万円(前年同四半期比69.6%増)となりました。

○セグメント構成

コニシ(株) 不動産部門

特集 | 新中期経営計画2021について

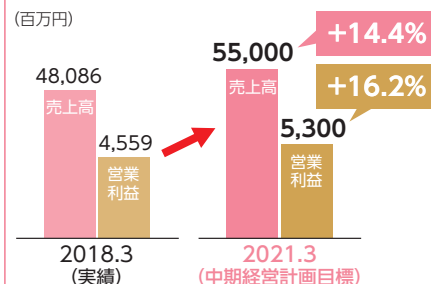
新中期経営計画2021 業績目標

	2021年3月期 (2018年3月期 比増減率)	2018年3月期 実績
売上高	1,500億円 (+16.7%)	1,284億円
営業利益	86億円 (+18.8%)	72億円
営業利益率	5.7%	5.6%
ROE	9.0%	8.6%
設備投資	150億円 (上限)	
M&A	150億円 (上限)	

コニシグループ各社との連携を強化し
売上高・営業利益ともに、過去最高を目指す!

ボンドセグメント

関係会社との連携を深め
グループ全体で拡販



① 関係会社との連携強化

- 「サンライズ」、「ウォールボンド工業」と販売・開発面での連携を推進

コニシグループでの
販売強化

インテリア・リフォーム
分野へ拡販

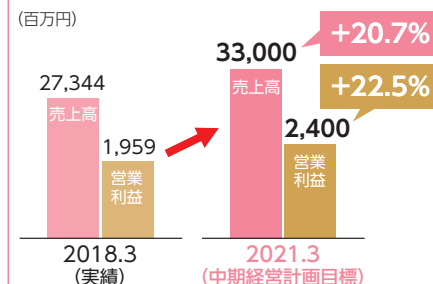


② 産業資材関連分野の強化

- 紙関連・パネル用途の更なる拡販
- 電子材料向け製品の育成

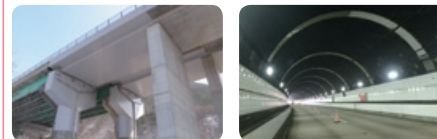
土木建設セグメント

社会インフラ・ストック市場の
補修・改修工事関連の取り込み強化



① 関係会社間の連携強化

- 「コニシ」と「ボンドエンジニアリング」との協業で、新製品・新工法の開発



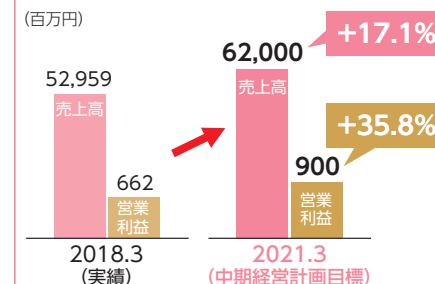
② シーリング材のシェア拡大

- 他社シェアの高い「新築分野」へ「開発グループ」を設置し、開拓を強化

トップシェア
を目指す!

化成品セグメント

化成品部門 構造改革の推進強化



① 材料科学研究所へテーマ創出

新設した材料科学研究所との連携強化

- 「化成品部門」からのテーマを受け、接着剤に捉われない開発を推進!

② 新規商材、新規顧客の開拓を強化

- 成長分野(自動車・電子電機)への深耕開拓

主要な投資案件について

1 製造設備増強

約25億円

- コニシレミンドベトナム 製造釜の増設
→東南アジアエリアへの販売強化
- ウォールボンド工業 「壁装用接着剤」製造設備の新設(滋賀)
→西日本エリアの生産拠点に
- サンライズ 「栃木工場」新設(シーリング材)
→東日本エリアの生産拠点に



2 関東営業拠点の再構築

約20億円

- 浦和工場跡地に関東支社を新設
→東京本社から大部分を移管予定(2019年秋頃 完成)

3 物流機能の充実

約18億円

- 自動コンテナ倉庫建設(滋賀)
- 自動ラック危険物倉庫建設(栃木)
- サンライズ栃木物流倉庫建設



4 製品運送の自社配送化

約3億円

- KB LINE(ボンド物流連結子会社)を活用し、ボンド製品の自社配送化を推進!



5 新基幹システムの導入

約7億円

- 販売・生産・物流間システムの効率化と顧客サービスの向上

連結財務諸表

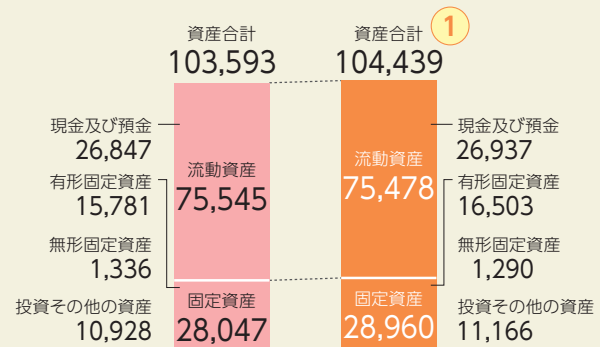
連結貸借対照表

(百万円)

〔資産の部〕

前連結会計年度末
2018年3月31日現在

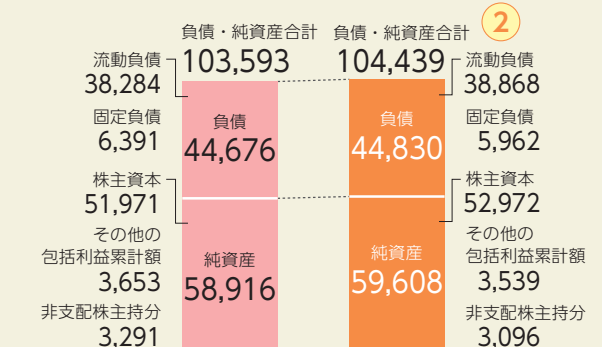
当第2四半期連結会計期間末
2018年9月30日現在



〔負債・純資産の部〕

前連結会計年度末
2018年3月31日現在

当第2四半期連結会計期間末
2018年9月30日現在



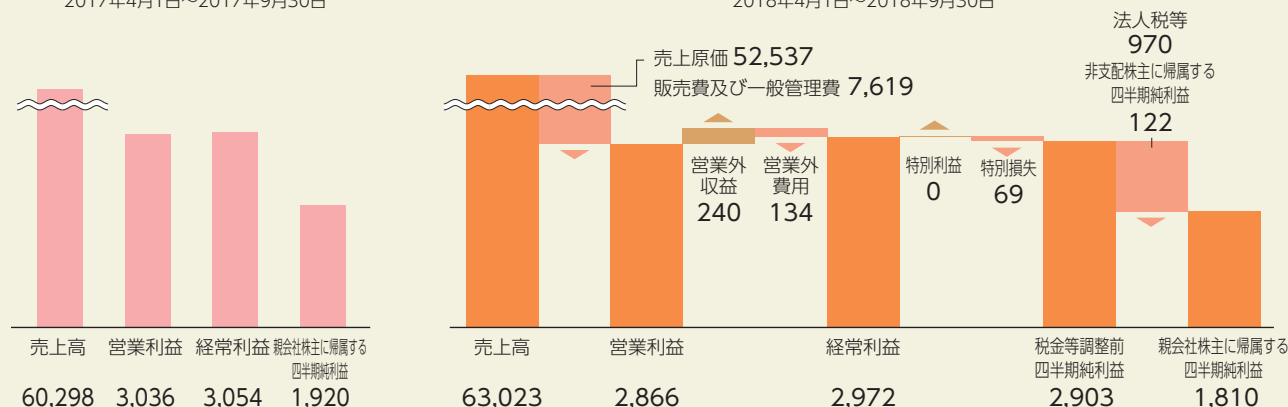
「税効果会計に係る会計基準」の一部改正等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度末の数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

連結損益計算書

(百万円)

前第2四半期連結累計期間
2017年4月1日～2017年9月30日

当第2四半期連結累計期間
2018年4月1日～2018年9月30日



ポイント

① 資産

資産は、有形固定資産が7億21百万円、投資有価証券が2億13百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ8億46百万円増加しました。

② 負債・純資産

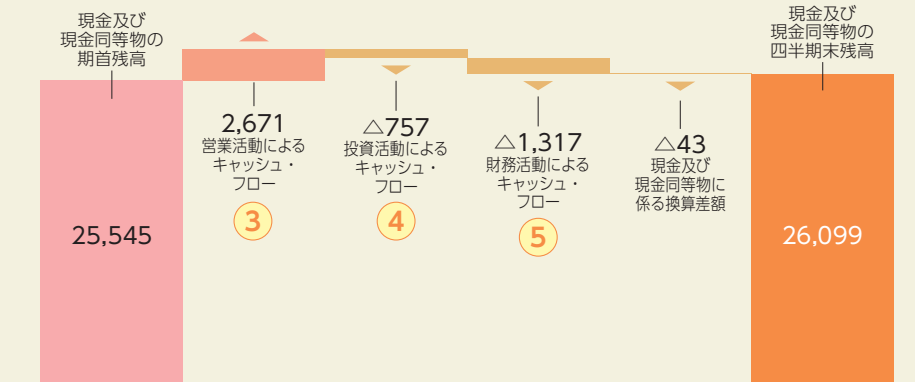
負債は、未払法人税等が3億88百万円、長期借入金が4億18百万円減少したものの、電子記録債務が8億78百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ1億53百万円増加しました。純資産は、マイナス項目である自己株式が3億18百万円増加し、非支配株主持分が1億95百万円減少したものの、利益剰余金が13億円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ6億92百万円増加しました。

個別財務ハイライト

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

当第2四半期連結累計期間
2018年4月1日～2018年9月30日



ポイント

③ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、法人税等の支払額が13億84百万円、たな卸資産の増加額が6億98百万円あったものの、税金等調整前四半期純利益が29億3百万円、売上債権の減少額が7億59百万円、減価償却費が7億53百万円あったこと等により26億71百万円となりました。

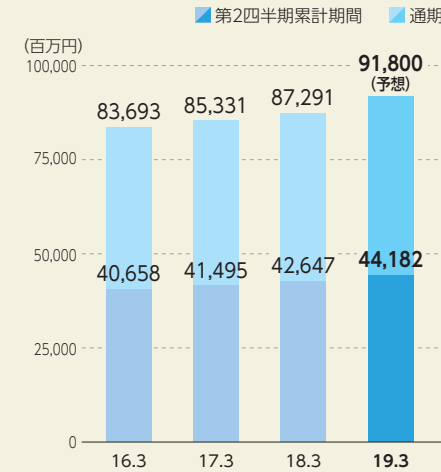
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、定期預金の払戻による収入が11億6百万円あったものの、有形固定資産の取得による支出が10億59百万円、定期預金の預入による支出が7億76百万円あったこと等により7億57百万円となりました。

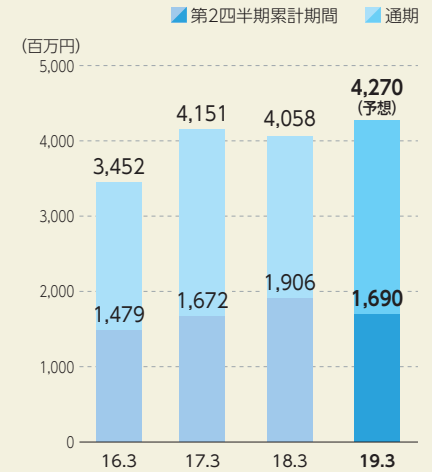
⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、配当金の支払額が5億9百万円、長期借入金の返済による支出が3億52百万円、自己株式の取得による支出が3億40百万円あったこと等により13億17百万円となりました。

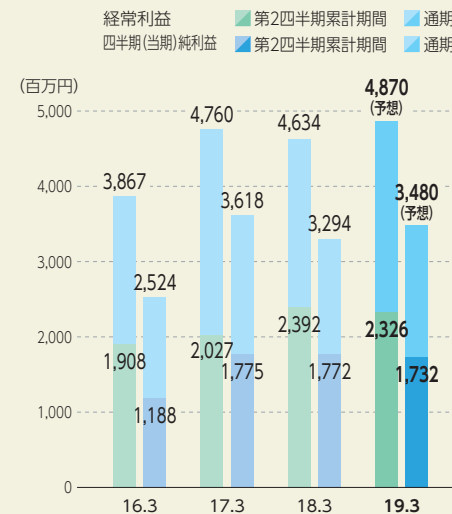
● 売上高



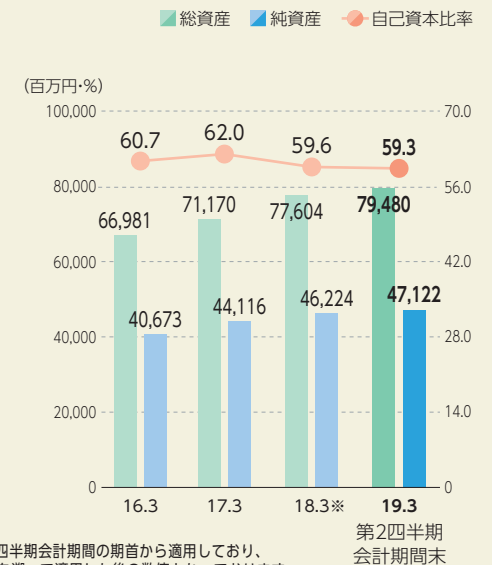
● 営業利益



● 経常利益・四半期(当期)純利益



● 総資産・純資産・自己資本比率



※「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、2018年3月期末の数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

会社概要

会社概要

(2018年9月30日現在)

設立 1925年(大正14年)9月25日
資本金 46億3百万円
従業員数 連結1,331名、単独765名
証券コード 4956
事業所 本店 〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目6番10号
 大阪本社 〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目7番1号
 北浜TNKビル
 東京本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2丁目3番地
 竹橋スクエア
支店 名古屋、福岡、横浜、札幌
営業所 仙台、栃木、前橋、千葉、静岡、金沢、滋賀、姫路、高松、広島、沖縄
製造拠点 栃木工場、滋賀工場
研究所 浦和研究所、材料科学研究所、大阪研究所
物流拠点 栃木物流センター、滋賀物流センター

役員

(2018年9月30日現在)

代表取締役社長	横田 隆	社外取締役	木村 亮
取締役専務執行役員	日下部 悟	常勤監査役	東郷 正人
取締役専務執行役員	有澤 彰三	社外監査役	吉川 郁夫
取締役常務執行役員	井上 孝一郎	社外監査役	川田 憲治
取締役常務執行役員	大山 啓一	執行役員	野田 昌治
取締役上席執行役員	松端 博文	執行役員	高中 喜一郎
取締役上席執行役員	巖 利彦	執行役員	大西 邦弘
取締役	小西 哲夫	執行役員	川竹 正敏
社外取締役	高瀬 桂子	執行役員	岡本 伸一



株式の状況

株式の状況

(2018年9月30日現在)

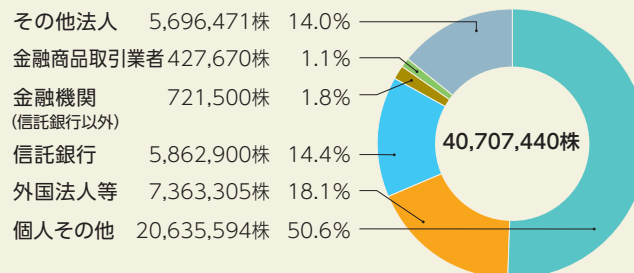
発行可能株式総数…………… 160,800,000株
発行済株式の総数…………… 40,707,440株
1単元の株式数…………… 100株
株主数…………… 4,596名

○大株主 (上位10名)

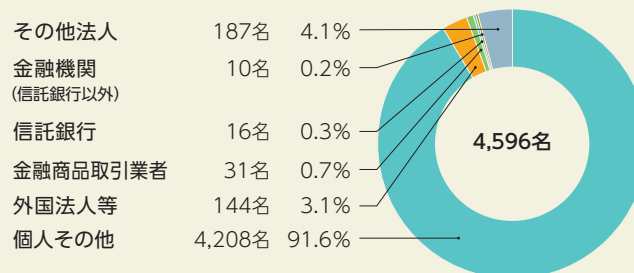
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
コニシ共栄会	2,242,900	6.18
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,524,400	4.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,183,800	3.26
小西千代子	820,848	2.26
株式会社カネカ	684,000	1.88
小西哲夫	668,600	1.84
コニシ従業員持株会	662,456	1.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	640,900	1.76
小西新太郎	543,216	1.49
三菱UFJ信託銀行株式会社	540,000	1.48

(注1) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数は、すべて信託業務に係る株式であります。
(注2) 持株比率は、自己株式(4,457,849株)を控除して記載しております。
また、小数第3位以下を切り捨てて表示しております。

○所有者別株式数の分布状況

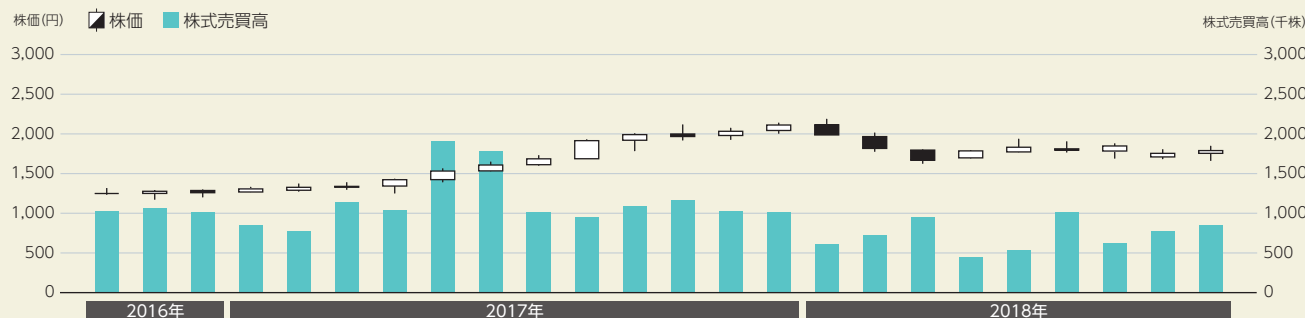


○所有者別株主数の分布状況



株価および株式売買高の推移

(2018年9月30日現在)



WEB SITE

ホームページ紹介



当社ホームページでは、株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報について積極的に情報開示を行っております。より深くご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。



アドレス

<http://www.bond.co.jp/ir/index.html>

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.bond.co.jp/ir/koukoku/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



大阪本社／〒541-0045 大阪市中央区道修町1-7-1 TEL 06(6228)2811
東京本社／〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-3 TEL 03(5259)5711



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。



この印刷物は、環境に配慮しFSCの
認証紙と水なし印刷方式を採用し
ています。